

「人間関係をつくる力」を高める指導援助プログラム

今、「自分の気持ちをどう伝えればいいのか」「友達とどうかかわったらいいのか」がわからず不適切な行動をとってしまう子供たちの姿があります。そんな子供たちも、心から友達がほしいと思っています。そして、みんなに自分のことを理解してもらいたいと思っています。しかし、その気持ちを伝える方法が身に付いていないばかりに、友達づくりに結び付かない場合も多いようです。

「人間関係をつくる力」を高めることは、今までも学校教育の中で行われてきました。また、遊びの中で自然に身に付けてきていました。しかし、子供たちの現状を考えると、これまで以上に意図的、計画的に行うことが必要になってきています。

では、「人間関係をつくる力」は、具体的にどうすれば高まるのでしょうか。様々な方策が考えられますが、ここでは、「自分や友達を温かく見つめ、互いにうまく自分の気持ちを伝え合う」ことによって、子供の心と心が結び付くことができるようになると考えました。それは、「人間関係をつくる力」が「自己肯定感」と「人とかかわる技能」の2つの要素と深くかかわるからです。

実際の指導では、「指導援助プログラム」という形で各授業を関連付けて指導にあたるとより効果的です。

「人間関係をつくる力」を高める要素

「人とかかわる技能」

相手の立場や思いを考えながら、自分の思いを効果的に伝えることで、良好な関係をつくることのできる力
例)・私は、〇〇と思うけど、あなたは どう思う。

「自己肯定感」

肯定的な「自己理解」「自己受容」「他者理解」「他者受容」から構成され、「自己のありのままを受け入れる力」
例)・自分はみんなに認められている。ダメなところもあるけど、それも自分だ。

「人間関係をつくる力」を高める指導援助プログラム

内容		場・方法	プログラム内容	日常
人間関係をつくる力	友達関係の形成		・ショートゲーム	自己肯定感を高めるために ・スピーチ活動 ・他
	自己肯定感	他者理解	・「4つの窓」	
		自己理解 他者理解	・「私はだれでしょう」	
	人とかかわる技能	基本的な技能	・「温かい・冷たい聞き方」 ・「ほめる・受け止める」	
発展的な技能		・「アサーティブ①」 ・「アサーティブ②」 ・「こんなときどうしよう」		

〈留意点〉

- クラス替えをして友達関係が固定化しない時期（1学期はじめ）に行うと、より効果が上がる。
 - 本プログラムは、学級活動の時間45分を単位として構成している。あらかじめ年間に位置付けて実践することが大切である。
- ※アサーティブ…単なる自己主張ではなく、相手の立場を尊重しながら自分の感情や意見を表現すること